

---

# 2014年度決算説明資料

2015年5月20日

損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社

# 1. 業績動向

P. 1

## 2. 国内損保事業

P. 11

## 3. 国内生保事業

P. 26

## 4. 海外保険事業

P. 31

# 2014年度決算サマリー

- 国内損保の収支改善などを背景に経常利益は2,083億円へ倍増(+959億円)、当期純利益は合併一時コスト(△795億円)などをカバーした上で542億円と101億円の増益
- 2015年度は経常利益2,300億円(+216億円)、当期純利益1,600億円(+1,057億円)を見込む

- 国内損保の収支改善が継続、コア保険引受利益は前年同期比438億円改善
- 自動車保険のコンバインド・レシオは94.8%まで改善、2015年度は92.3%とさらなる改善を見込む
- 合併を完遂、2014年度に特損計上した合併一時コストは795億円と想定(約800億円)どおり
- 国内生保は医療保険新商品が販売好調、経常利益・当期純利益とも増益
- 海外は順調に推移、ボトムラインは既に2015年度の経営計画目標値(140~200億円)を達成
- 政策株式削減額は860億円と着実に進展、2015年度もコンスタントな削減を計画
- 株主還元拡充(増配および自社株取得)を決定

## 2014年度決算概況(連結)

- ◆ トップラインは順調に拡大、経常利益は2,083億円と大幅増益(+959億円)
- ◆ 合併一時コスト(△795億円)や法人税減税影響(△181億円)を吸収して当期純利益は542億円

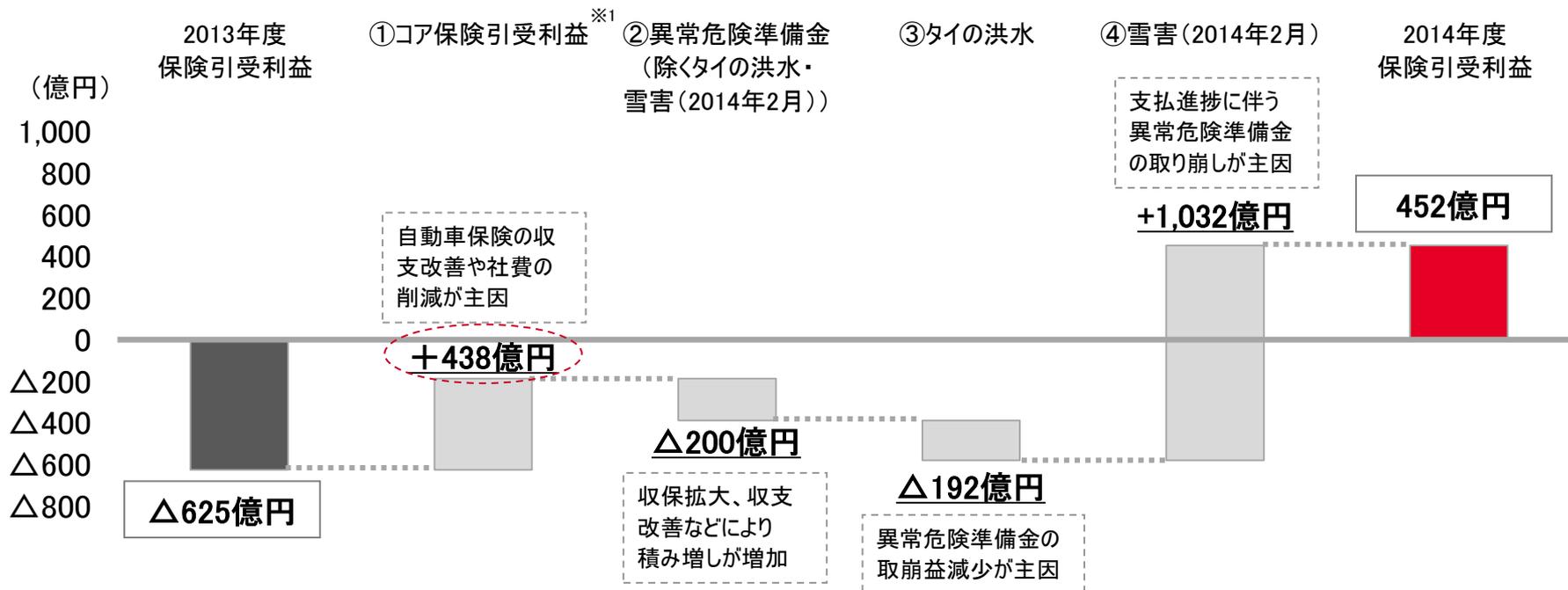
(単位:億円)	2013年度	2014年度	増減	2015年度 通期業績予想
経常収益(連結)	30,083	32,823	+2,740 (+9.1%)	-
正味収入保険料	22,689	25,080	+2,390 (+10.5%)	26,070
生命保険料	2,772	2,772	△0 (△0.0%)	2,770
経常利益(連結)	1,123	2,083	+959	2,300
損保ジャパン日本興亜	1,177	1,951	+773	1,860
ひまわり生命	137	183	+45	159
海外グループ会社	109	219	+110	255
その他・連結調整※1	△301	△271	+29	25
当期純利益(連結)	441	542	+101	1,600
損保ジャパン日本興亜	495	450	△44	1,280
ひまわり生命	80	97	+16	102
海外グループ会社	115	194	+78	195
その他・連結調整※1	△250	△199	+50	21
(参考)修正利益(事業別)	1,015	1,383	+367	2,280
国内損保事業	65	699	+634	1,167
国内生保事業	857	474	△383	900
海外保険事業	78	186	+108	192
金融・サービス事業	15	23	+8	24

※1 損保ジャパン日本興亜ホールディングス(旧NKSJホールディングス)の設立にあたり、企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用している。HD連結では、旧日本興亜損保等の資産・負債を経営統合時の時価で取得し、これを簿価としている(損保ジャパン日本興亜等の単体上の認識簿価とHD連結上の認識簿価が相違)。したがって、損保ジャパン日本興亜の売却損益等を修正する必要がある、この修正を上記「連結調整」に含めている。

# 決算のポイント①損保ジャパン日本興亜の保険引受利益

- ◆ 自動車保険の収支改善や雪害(2014年2月)の支払進捗に伴う異常危険準備金の取崩しなどにより、保険引受利益は452億円と+1,078億円の大幅改善

## 保険引受利益(損保ジャパン日本興亜)の増減要因



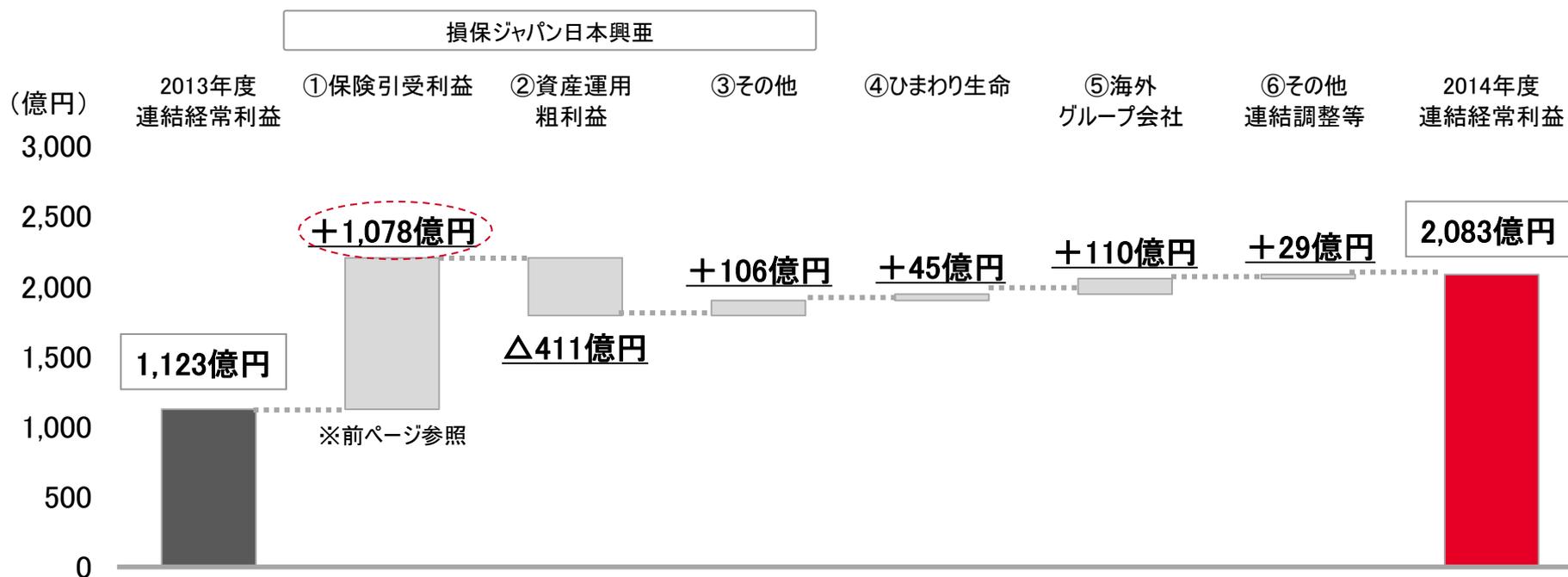
	①コア保険引受利益	②異常危険準備金	③タイの洪水	④雪害(2014年2月)
2013年度実績	144億円	△336億円	213億円	△646億円
2014年度実績	582億円	△536億円	21億円	385億円

※1 コア保険引受利益は、保険引受利益から異常危険準備金、タイの洪水および雪害(2014年2月)に係る影響を除いたもの

# 決算のポイント②連結経常利益

◆ 保険引受利益の改善を主因に、連結経常利益は2,083億円(+959億円)と倍増

## 連結経常利益の増減要因

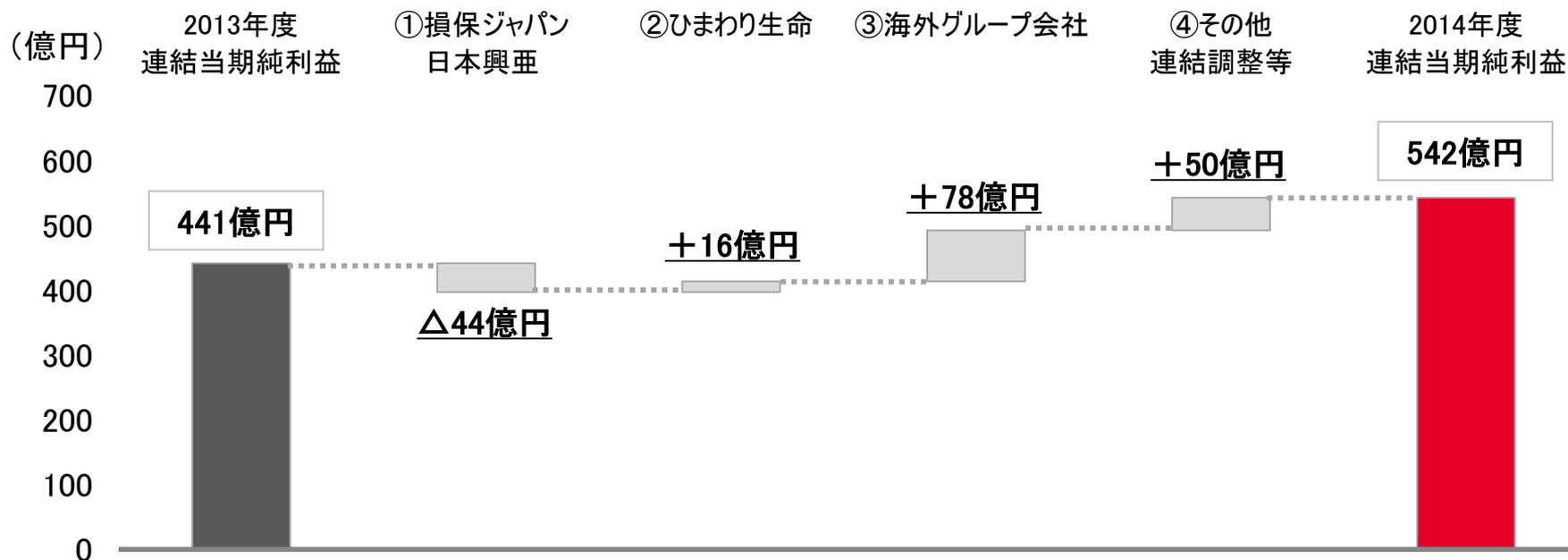


	①保険引受利益	②資産運用粗利益	③その他	④ひまわり生命	⑤海外グループ会社	⑥その他連結調整等
2013年度実績	△625億円	1,927億円	△123億円	137億円	109億円	△301億円
2014年度実績	452億円	1,515億円	△16億円	183億円	219億円	△271億円

# 決算のポイント③連結当期純利益

◆ 合併一時コスト、法人税減税の影響をカバーし、連結当期純利益は542億円と101億円の増益

## 連結当期純利益の増減要因



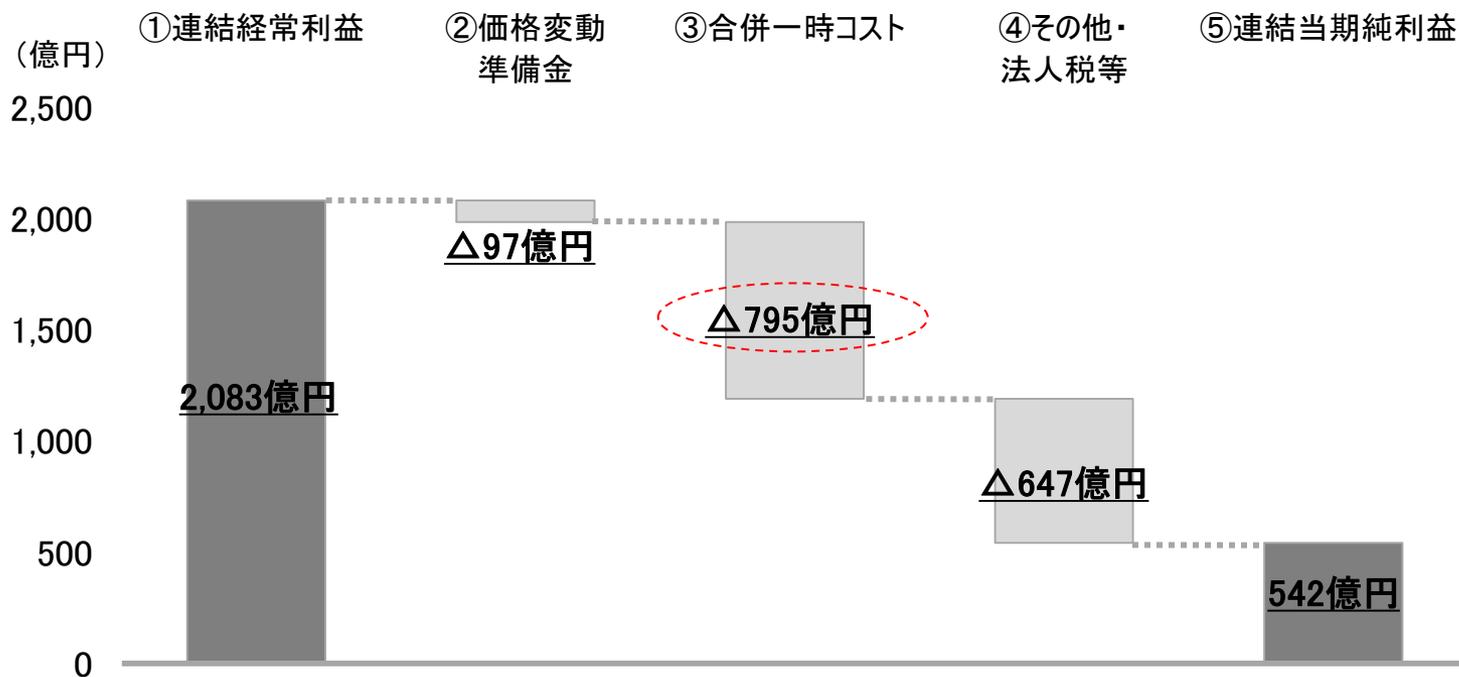
	①損保ジャパン 日本興亜	②ひまわり生命	③海外グループ会社	④その他 連結調整等
2013年度実績	495億円	80億円	115億円	$\Delta 250$ 億円
2014年度実績	450億円	97億円	194億円	$\Delta 199$ 億円

# 特別損益等の内訳

◆ 合併一時コスト(△795億円)や法人税減税影響(△181億円)が一時的なマイナス要因※1

※1 合併一時コストや法人税減税影響については、修正利益算出上、特殊要因として控除している

## 経常利益と当期純利益の差



	①連結経常利益	②価格変動準備金	③合併一時コスト	④その他・法人税等	⑤連結当期純利益
2013年度実績	1,123億円	△82億円	△209億円	△390億円	441億円
2014年度実績	2,083億円	△97億円	△795億円	△647億円	542億円

# 法人税減税影響

- ◆ 法人税減税は中長期的にプラス影響
- ◆ 一時的には、繰延税金資産取崩がボトムラインに影響

## 法人税実効税率(損保ジャパン日本興亜)

減税前	減税後
30.7%	28.8%

## 2014年度決算への影響

(億円)	当期純利益
損保ジャパン日本興亜	△196
ひまわり生命	△17
パーチェス修正等	+32※1
計	△181

※1 損保ジャパン日本興亜ホールディングス(旧NKSJホールディングス)の設立時に「パーチェス法」を適用し、株式等の含み益を株主資本に繰り入れたことにより、繰延税金負債を計上した。減税に伴いこの繰延税金負債が減額されるため、当期純利益が増加する。

## 2015年度通期業績予想概況(連結)

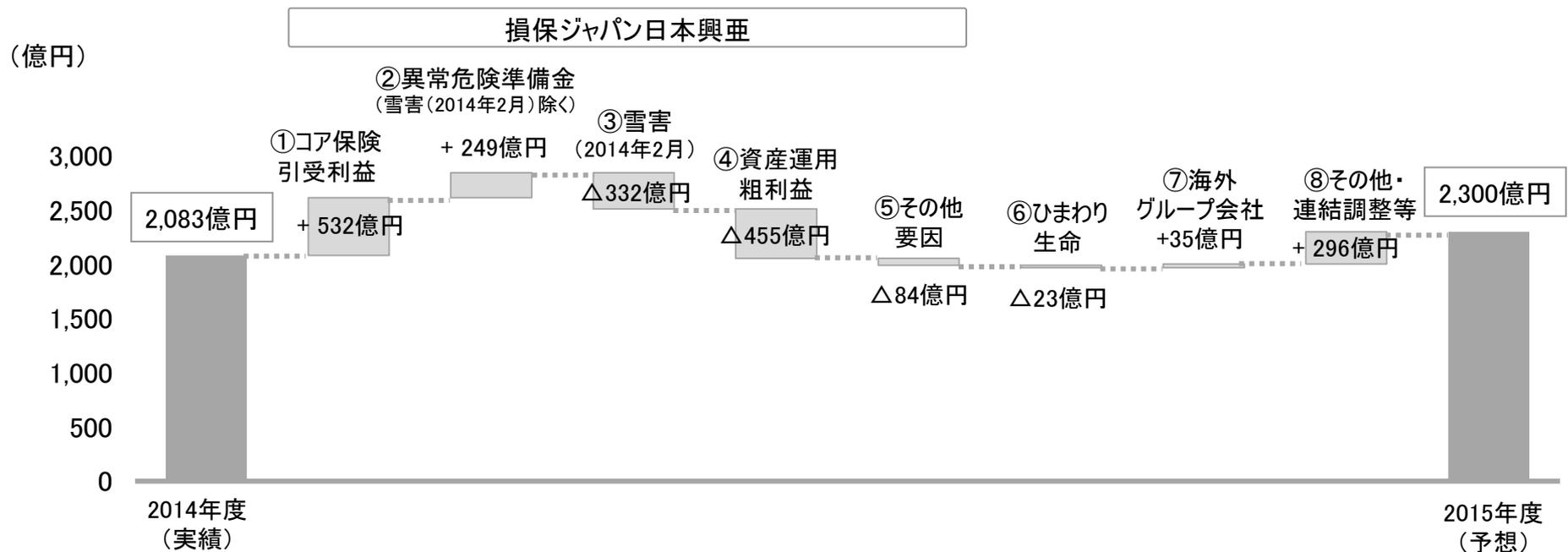
(単位:億円)	2014年度 (実績)	2015年度 (予想)	増減	
正味収入保険料	25,080	26,070	+989	(+3.9%)
生命保険料	2,772	2,770	△2	(△0.1%)
経常利益(連結)	2,083	2,300	+216	(+10.4%)
損保ジャパン日本興亜	1,951	1,860	△91	(△4.7%)
ひまわり生命	183	159	△23	(△12.8%)
海外グループ会社	219	255	+35	(+16.0%)
その他・連結調整※1	△271	25	+296	(—)
当期純利益(連結)	542	1,600	+1,057	(+194.8%)
損保ジャパン日本興亜	450	1,280	+829	(+184.1%)
ひまわり生命	97	102	+5	(+5.7%)
海外グループ会社	194	195	+1	(+0.5%)
その他・連結調整※1	△199	21	+221	(—)
(参考)修正利益(事業別)	1,383	2,280	+896	(+64.8%)
国内損保事業	699	1,167	+468	(+66.9%)
国内生保事業	474	900	+426	(+89.9%)
海外保険事業	186	192	+5	(+3.0%)
金融・サービス事業	23	24	+0	(+4.3%)

※1 損保ジャパン日本興亜ホールディングス(旧NKSJホールディングス)の設立にあたり、企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用している。HD連結では、旧日本興亜損保等の資産・負債を経営統合時の時価で取得し、これを簿価としている(損保ジャパン日本興亜等の単体上の認識簿価とHD連結上の認識簿価が相違)。したがって、損保ジャパン日本興亜の売却損益等を修正する必要があり、この修正を上記「連結調整」に含めている。

# 2015年度通期業績予想のポイント(連結経常利益)

◆ 連結経常利益は保険引受利益の拡大を主因に2,300億円への増益(+216億円)を見込む

## 連結経常利益の主要構成要素



	①コア保険引受利益	②異常危険準備金	③雪害(2014年2月)	④資産運用粗利益	⑤其他要因	⑥ひまわり生命	⑦海外グループ会社	⑧其他・連結調整等
2014年度実績	582億円	△536億円	385億円	1,515億円	4億円	183億円	219億円	△271億円
2015年度予想	1,114億円	△287億円	53億円	1,060億円	△80億円	159億円	255億円	25億円

1. 業績動向

P. 1

2. 国内損保事業

P. 11

3. 国内生保事業

P. 26

4. 海外保険事業

P. 31

## 2014年度決算概況(損保ジャパン日本興亜)

- ◆ トップラインは順調に拡大、保険引受利益の改善などにより経常利益は大幅増益
- ◆ 合併一時コスト(795億円)を特損計上、法人税減税影響も吸収し当期純利益は450億円

(単位: 億円)	2013年度	2014年度	増減
正味収入保険料	20,821	21,813	+991 (+4.8%)
除く自賠責・家計地震	17,830	18,752	+922 (+5.2%)
正味損害率	65.7%	65.6%	△0.1pt
除く自賠責・家計地震	62.7%	63.2%	+0.5pt
正味事業費率	32.2%	31.8%	△0.4pt
除く自賠責・家計地震	34.2%	33.6%	△0.6pt
コンバインド・レシオ	97.9%	97.4%	△0.5pt
除く自賠責・家計地震	96.9%	96.8%	△0.1pt
保険引受利益	△625	452	+1,078
資産運用粗利益	1,927	1,515	△411
経常利益	1,177	1,951	+773
当期純利益	495	450	△44
(参考)			
修正利益			
+) 異常危険準備金繰入額(税引後)	80	△77	△157
+) 価格変動準備金繰入額(税引後)	52	63	+11
-) 有価証券売却損益・評価損(税引後)	739	456	△282
-) 特殊要因(税引後) <sup>※1</sup>	△267	△800	△532
修正利益	156	779	+623

※1 特殊要因は合併一時コスト等

# 正味収入保険料

## ◆ 主力の自動車保険や火災保険をはじめ全種目で増収

### 種目別正味収入保険料

(単位:億円)

	2013年度	2014年度	増減	2015年度 (予想)	増減
火災	2,836	3,232	+395 (+14.0%)	3,125	△106 (△3.3%)
海上	456	525	+69 (+15.1%)	555	+30 (+5.8%)
傷害	1,849	1,852	+2 (+0.1%)	1,864	+11 (+0.6%)
自動車	10,141	10,437	+295 (+2.9%)	10,862	+424 (+4.1%)
自賠責	2,982	3,052	+69 (+2.3%)	3,048	△3 (△0.1%)
その他	2,554	2,712	+158 (+6.2%)	2,749	+36 (+1.4%)
うち賠償責任	1,503	1,569	+66 (+4.4%)	1,530	△39 (△2.5%)
合計	20,821	21,813	+991 (+4.8%)	22,206	+393 (+1.8%)
合計(除く自賠責・家計地震)	17,830	18,752	+922 (+5.2%)	19,147	+395 (+2.1%)

(参考) 自動車保険の台数・単価・保険料  
対前年同期比(2015年3月末)

	損保ジャパン日本興亜		
	台数	単価	保険料
ノンフリート	△0.7%	3.2%	2.4%
フリート	2.1%	3.0%	5.2%
合計	△0.2%	3.1%	2.9%

※営業成績保険料ベース

(主な増収要因)

火災: 家計分野、企業分野とも堅調に推移するとともに、受再保険料が増収

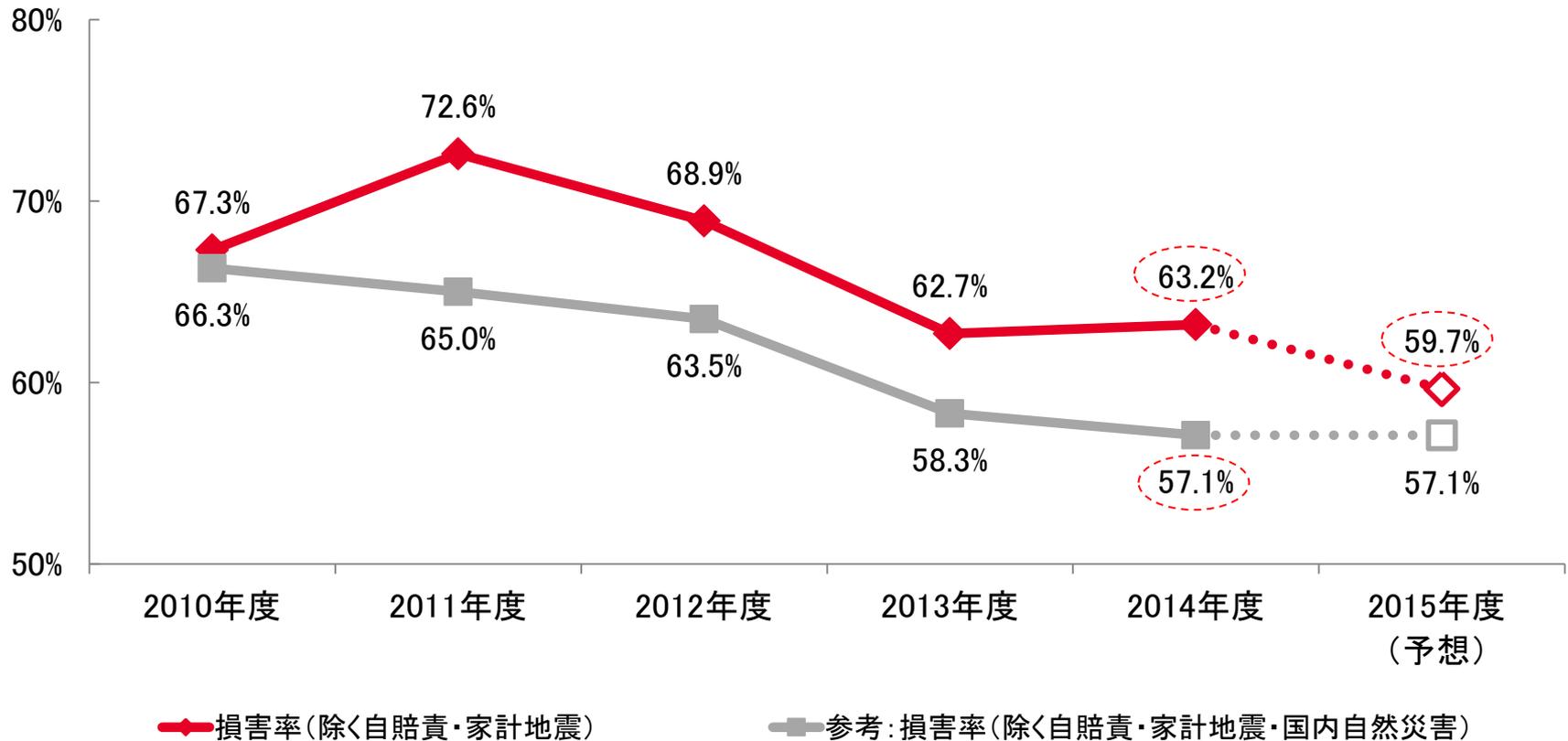
自動車: 商品・料率改定効果による影響が主因

その他: 賠償責任保険など引き受けが好調

# 損害率(リトン・ペイド)

- ◆ 2014年度は雪害(2014年2月)のペイド化などにより0.5ポイント上昇
- ◆ 2015年度は59.7%と3.5ポイントの改善を見込む

## W/P損害率(除く自賠責・家計地震)の推移

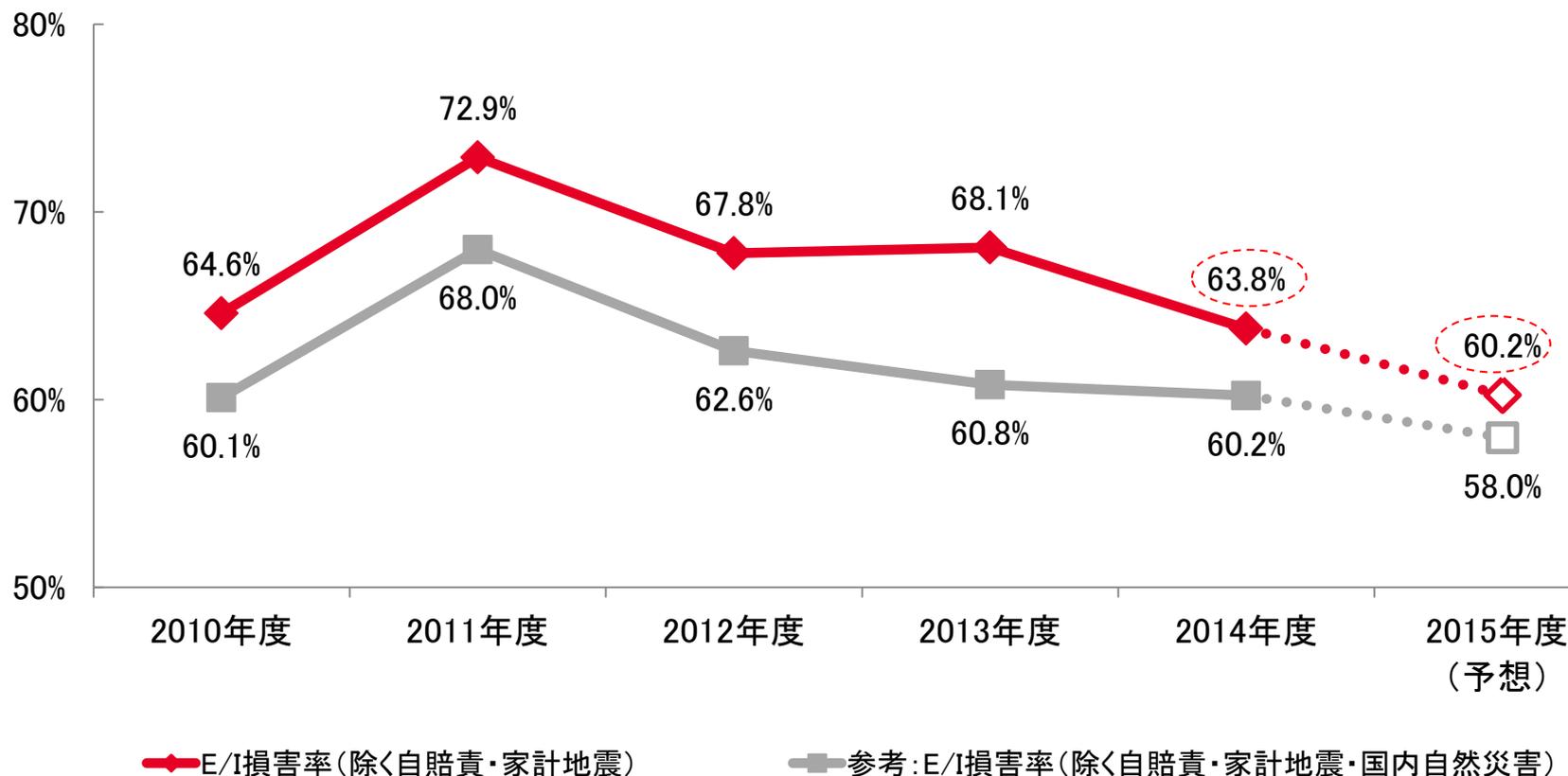


※ 損害率はW/Pベース(含む損調費)

# 損害率(アード・インカード)

- ◆ 2014年度は自動車保険の収支改善効果などにより大幅改善
- ◆ 2015年度はさらなる改善を見込む

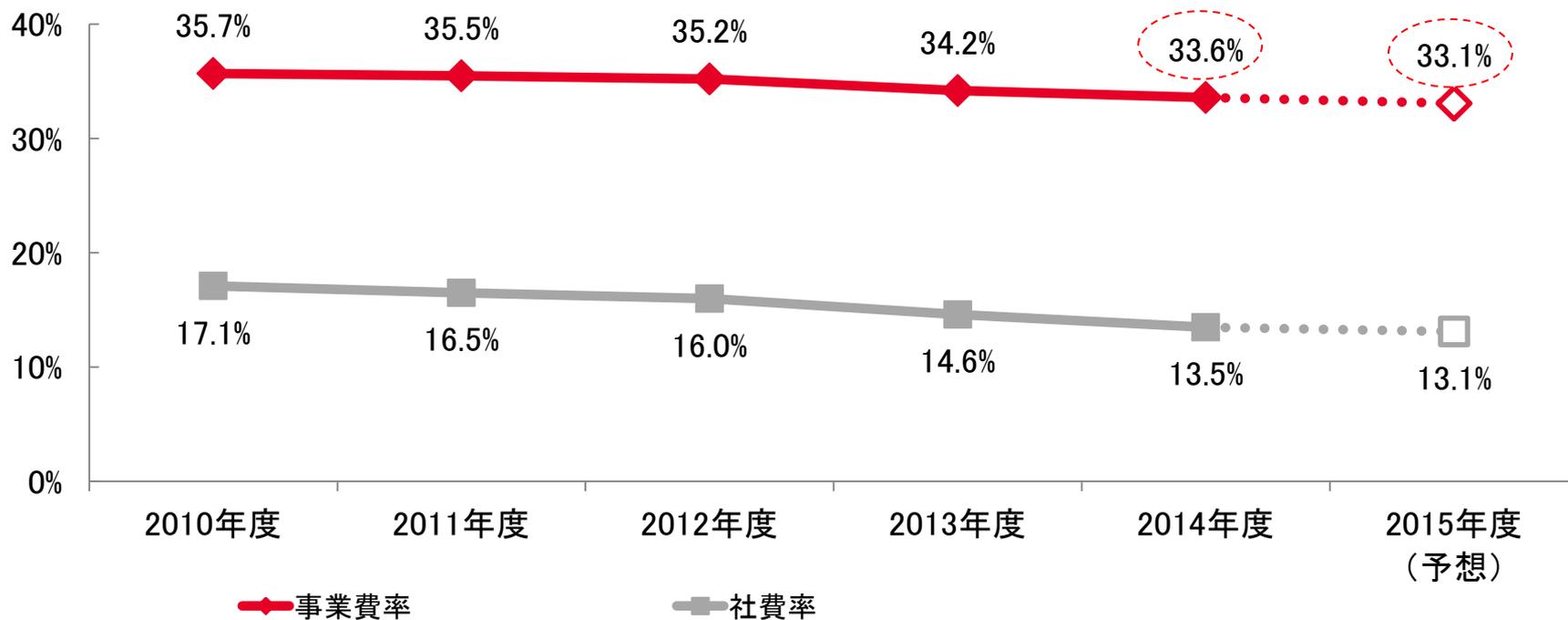
## E/I損害率(除く自賠責・家計地震)の推移



# 事業費率

◆ 事業費率、社費率ともに着実に低下

## 事業費率(除く自賠責・家計地震)の推移

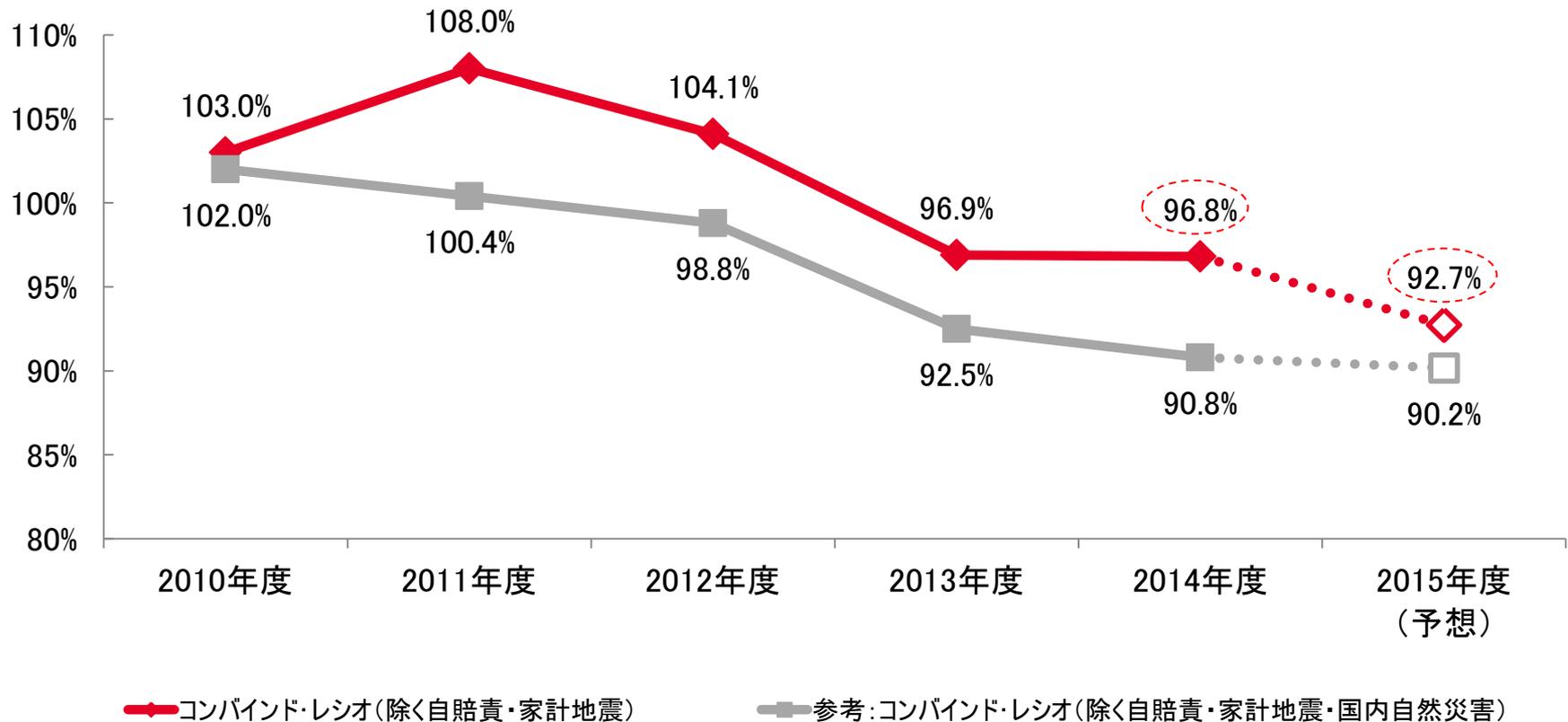


※ 社費率は、保険引受に係る営業費及び一般管理費の正味保険料に対する比率

# コンバインド・レシオ

- ◆ 雪害(2014年2月)ペイド化などにより2014年度のコンバインド・レシオは96.8%と横ばい
- ◆ 2015年度は92.7%と4.1ポイントの改善を見込む

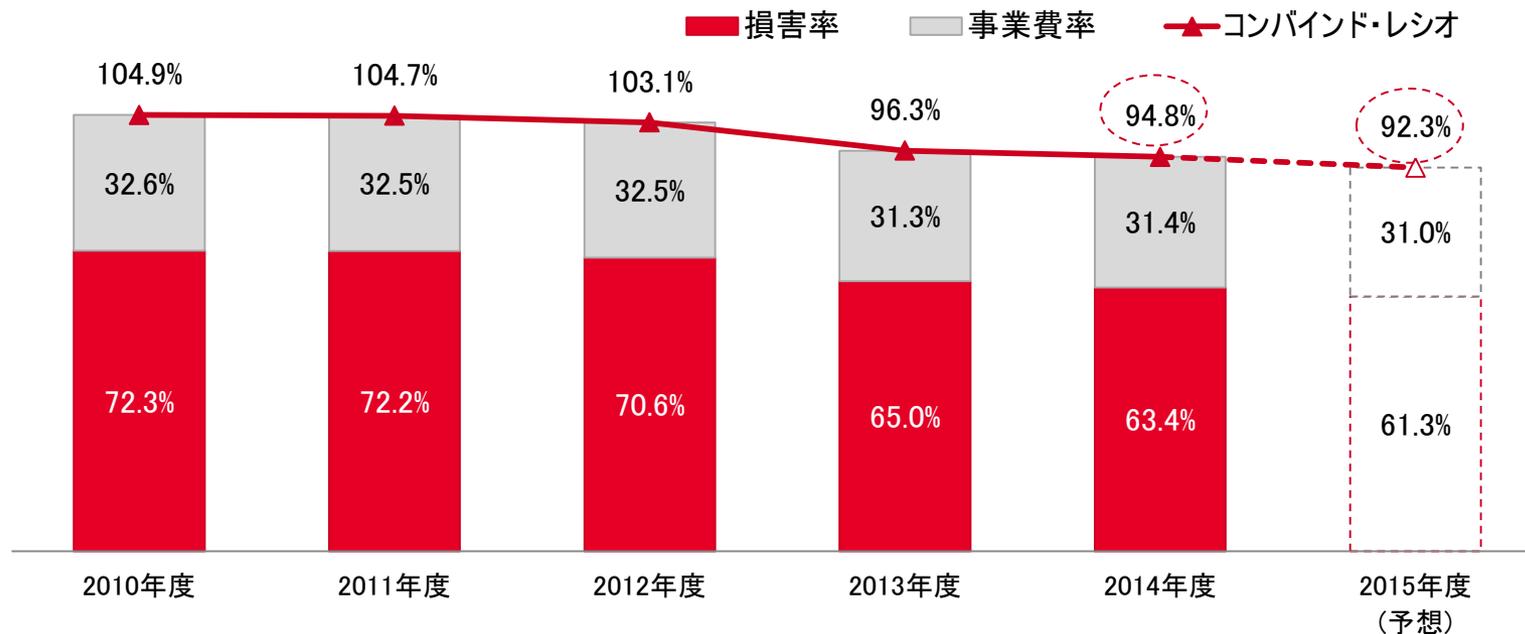
## コンバインド・レシオ(除く自賠責・家計地震)の推移



# 自動車保険－収支の状況

- ◆ コンバインド・レシオは、商品・料率改定効果や支払件数の減少などにより改善傾向を維持
- ◆ 2015年度は92.3%とさらなる改善を見込む

## 自動車保険のコンバインド・レシオの推移

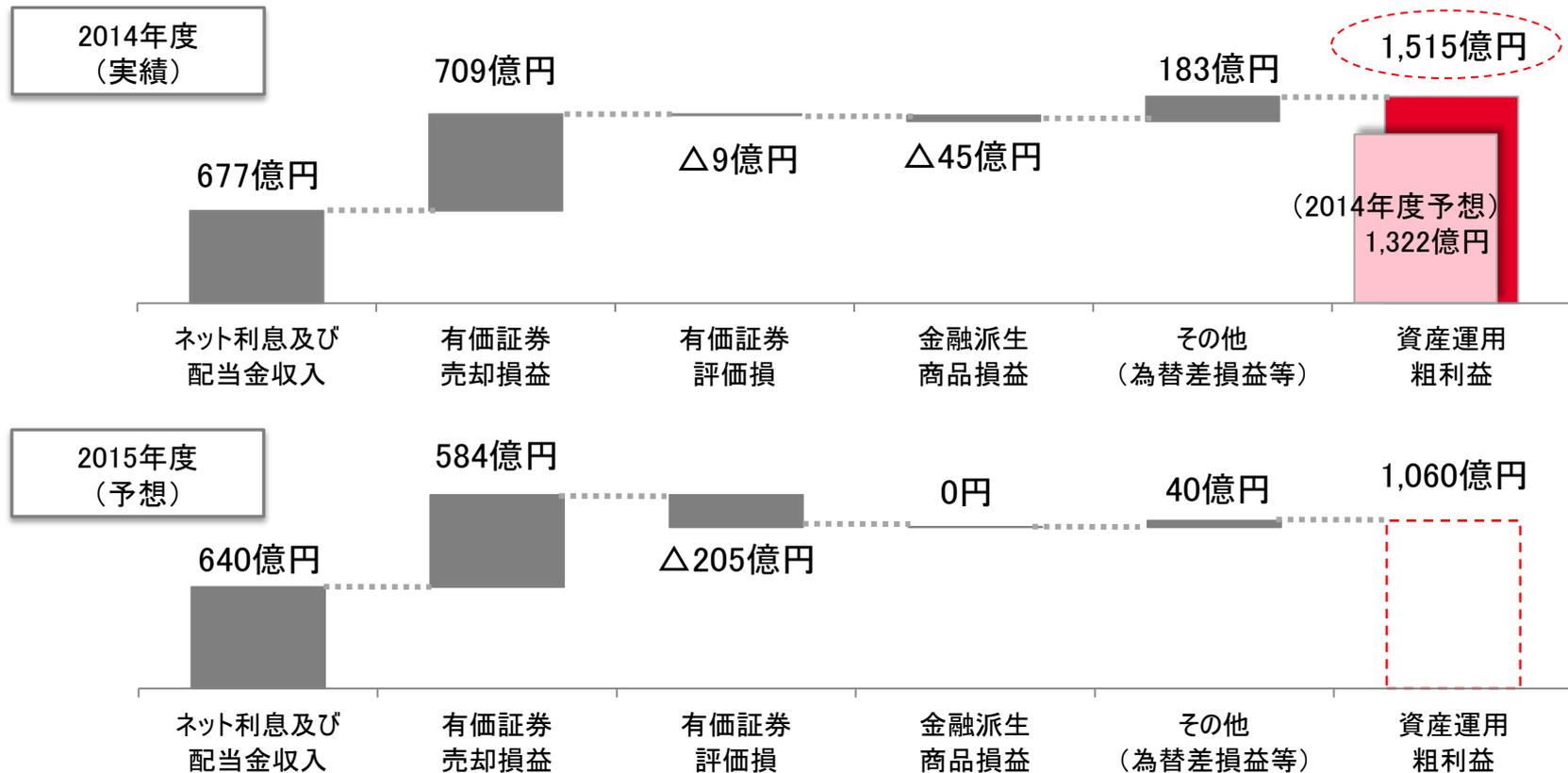


※ 損害率はW/Pベース(含む損調費)

# 資産運用損益

◆ 2014年度の資産運用粗利益は、良好な運用環境を背景に業績予想を上回る

## 資産運用粗利益(損保ジャパン日本興亜)のブレイクダウン



## 2015年度通期業績予想(損保ジャパン日本興亜)

(単位:億円)

	2014年度実績	2015年度予想	増減
正味収入保険料	21,813	22,206	+393 (+1.8%)
(除く自賠責・家計地震)	18,752	19,147	+395 (+2.1%)
正味損害率	65.6%	62.5%	△3.1pt
(除く自賠責・家計地震)	63.2%	59.7%	△3.5pt
EI損害率(除く自賠責・家計地震)	63.8%	60.2%	△3.5pt
正味事業費率	31.8%	31.4%	△0.4pt
(除く自賠責・家計地震)	33.6%	33.1%	△0.6pt
コンバインド・レシオ	97.4%	93.8%	△3.6pt
(除く自賠責・家計地震)	96.8%	92.7%	△4.1pt
保険引受利益	452	880	+427(+94.6%)
資産運用粗利益	1,515	1,060	△455 (△30.1%)
経常利益	1,951	1,860	△91 (△4.7%)
当期純利益	450	1,280	+ 829( +184.1%)
(参考)			
修正利益			
+) 異常危険準備金繰入額(税引後)	△77	166	+ 244
+) 価格変動準備金繰入額(税引後)	63	58	△4
-) 有価証券売却損益・評価損(税引後)	456	269	△186
-) 特殊要因(税引後) <sup>※1</sup>	△800	0	+ 800
修正利益	779	1,235	+ 455 (+58.4%)

※1 特殊要因は合併一時コスト等

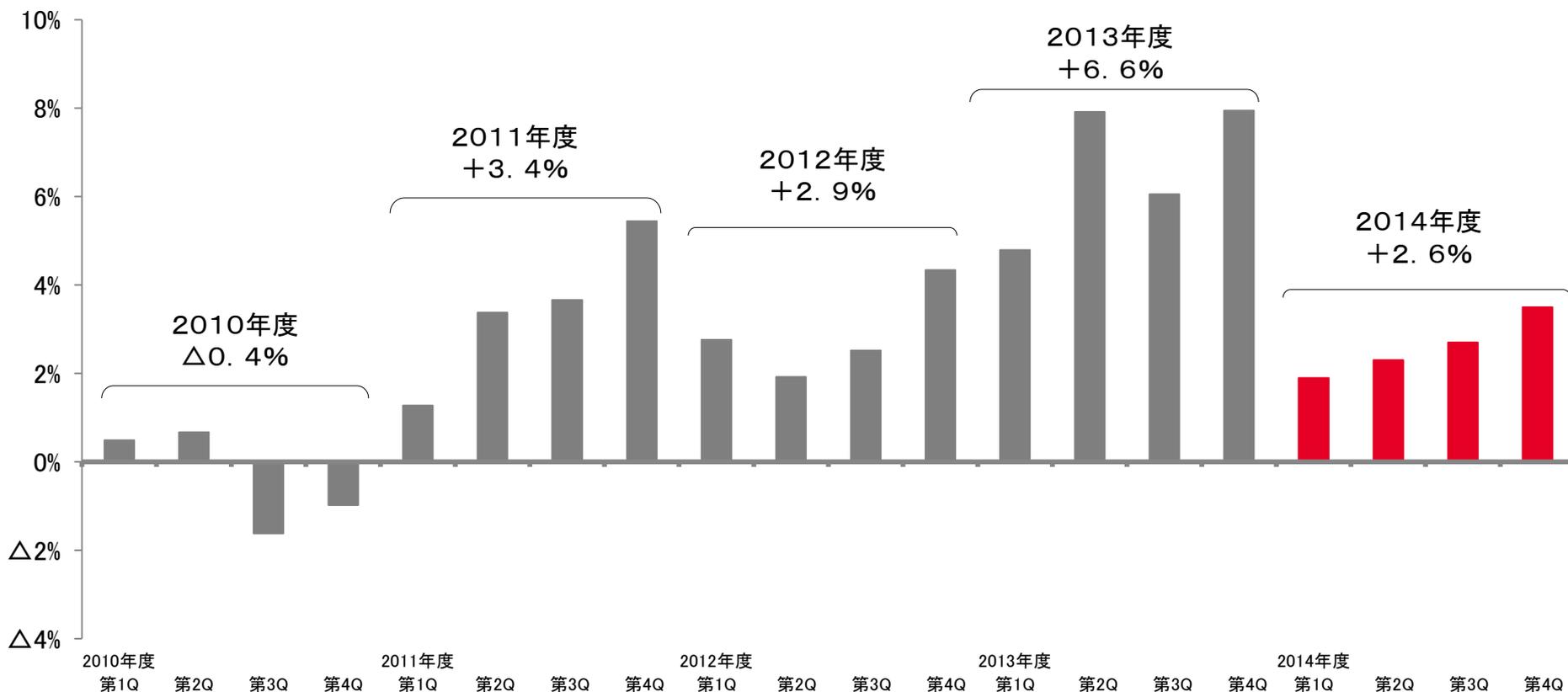
## 2015年度通期業績予想の前提

国内自然災害(当年度発生)	430億円
雪害(2014年2月)	正味支払保険金:53億円
異常危険準備金	234億円の積み増し(ネット)
異常危険準備金繰入率	火災グループの繰入率:10% 自動車グループの繰入率:3.2%
資産運用	<株価> 日経平均:19,206円 <金利> 10年国債:0.41% <為替> ドル円:120.17円、ユーロ円:130.32円
利息及び配当金収入	グロス:1,066億円 ネット:640億円
有価証券キャピタル損益	有価証券売却損益:584億円 有価証券評価損:205億円
価格変動準備金	82億円の繰入れ(ネット)

## (参考) 営業成績保険料

## ◆ 2011年度以降増収基調

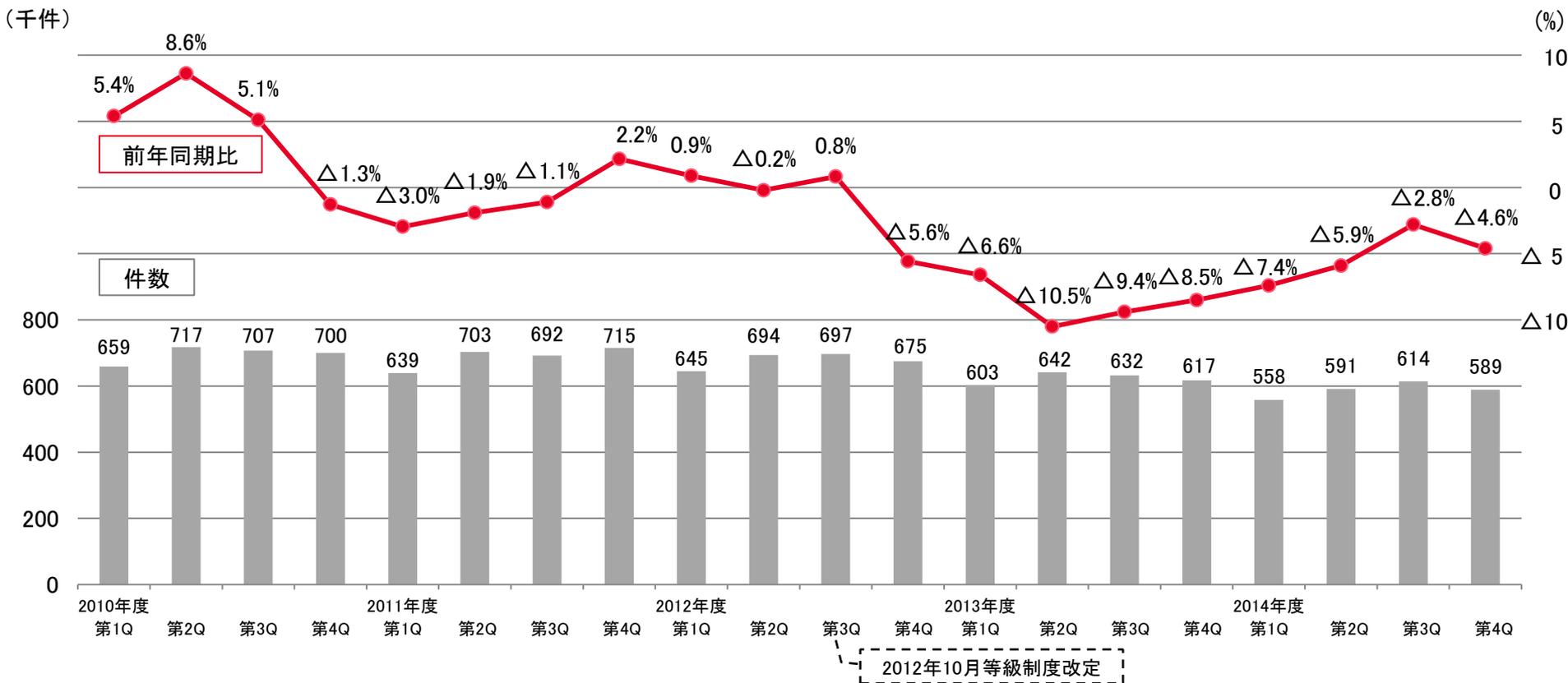
## 営業成績保険料(一般種目計、前年同期比)の推移



※ 営業成績保険料ベース

# (参考) 自動車保険の事故受付件数

## 事故受付件数の推移



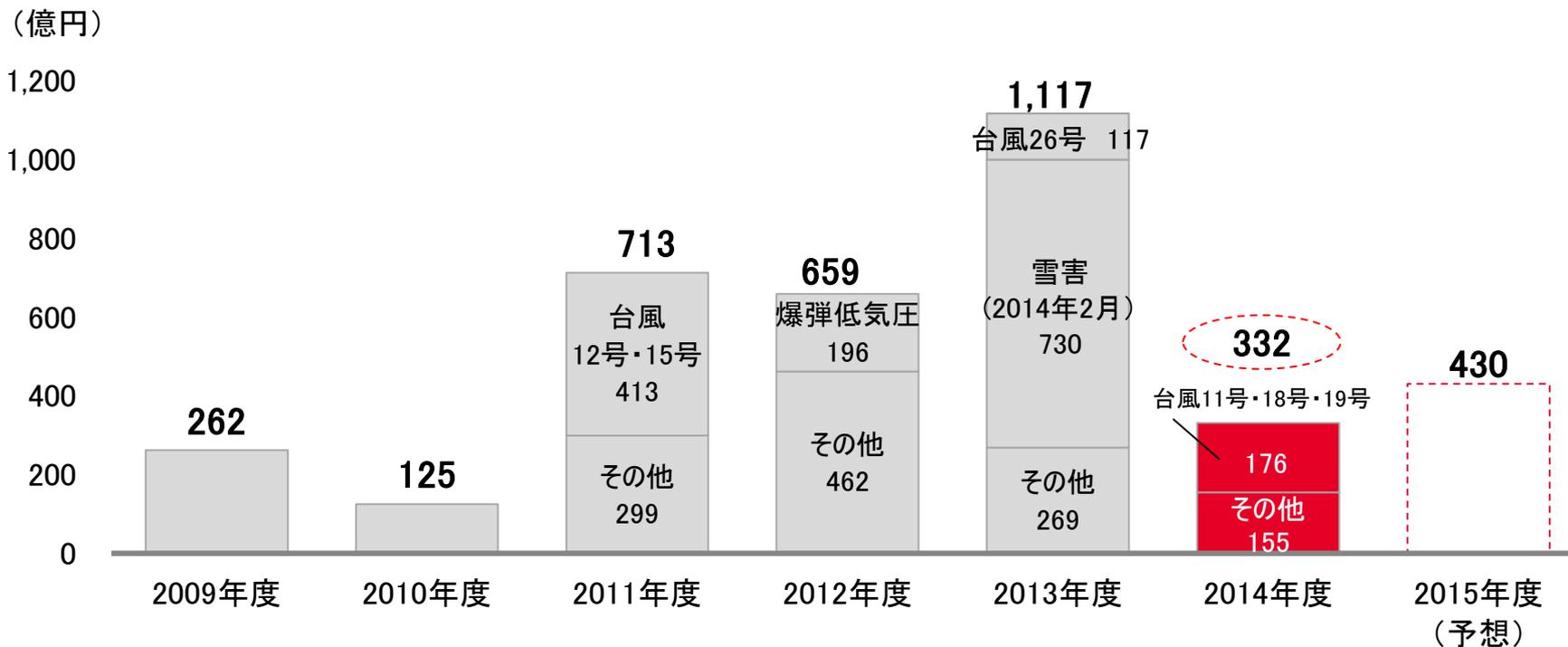
※ 事故受付件数対前年同期比は暦影響を調整

※ 各期の特殊要因(東日本大震災、2011年度発生 of 台風12号、台風15号、2012年度発生 of 爆弾低気圧および雪害(2014年2月))を除いている

# (参考) 国内自然災害

◆ 2014年度の国内自然災害に係る発生損害額は332億円

## 国内自然災害の正味発生損害の推移(当年度発生のみ)



※ 東日本大震災は除く

## (参考) 雪害(2014年2月)

◆ 雪害の支払いは概ね完了、2014年度は異常危険準備金取崩益を主因に385億円の利益貢献

## 雪害(2014年2月)の影響

(単位:億円)

	2013年度	2014年度		2014年度 までの累計	
	種目合計	種目合計	火災	自動車	種目合計
正味支払保険金	208	731	660	48	940
支払備金積増	521	△468	△413	△36	53
正味発生損害額	730	263	246	12	994
異常危険準備金取崩	84	649	600	48	733
保険引受利益への影響	△646	385	354	36	△260

※ 2014年2月8日～19日発生分

1. 業績動向

P. 1

2. 国内損保事業

P. 11

3. 国内生保事業

P. 26

4. 海外保険事業

P. 31

## ANPと保有AP

◆ 保有拡大に伴い保有契約年換算保険料は増加、特に保障性商品で拡大

	2013年度	2014年度	増減	2015年度予想	増減
新契約高	26,350	23,886	△2,463 (△9.3%)	24,619	+784 (+3.3%)
新契約年換算保険料	304	356	+51 (+16.8%)	395	+39 (+11.0%)
保険料等収入	3,728	3,807	+78 (+2.1%)	3,908	+100 (+2.6%)
(除く一時払保険料)	3,690	3,775	+84 (+2.3%)	3,879	+103 (+2.7%)
経常利益	172	225	+53 (+30.9%)	202	△23 (△10.4%)
当期純利益	80	97	+16 (+20.6%)	102	+5 (+5.7%)

(単位: 億円)

	2013年度末	2014年度末	増減		増減
保有契約高	202,455	210,431	+7,975 (+3.9%)	内訳	保障性 +73
保有契約年換算保険料	3,085	3,174	+89 (+2.9%)		貯蓄性 +15
					合計 +89

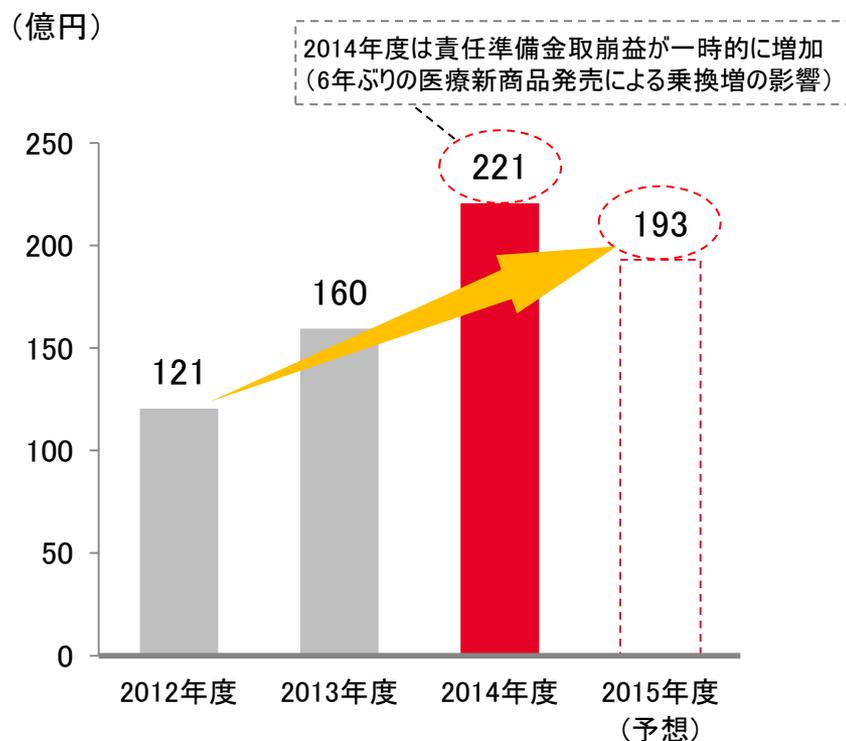
(単位: 億円)

※契約高および年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計

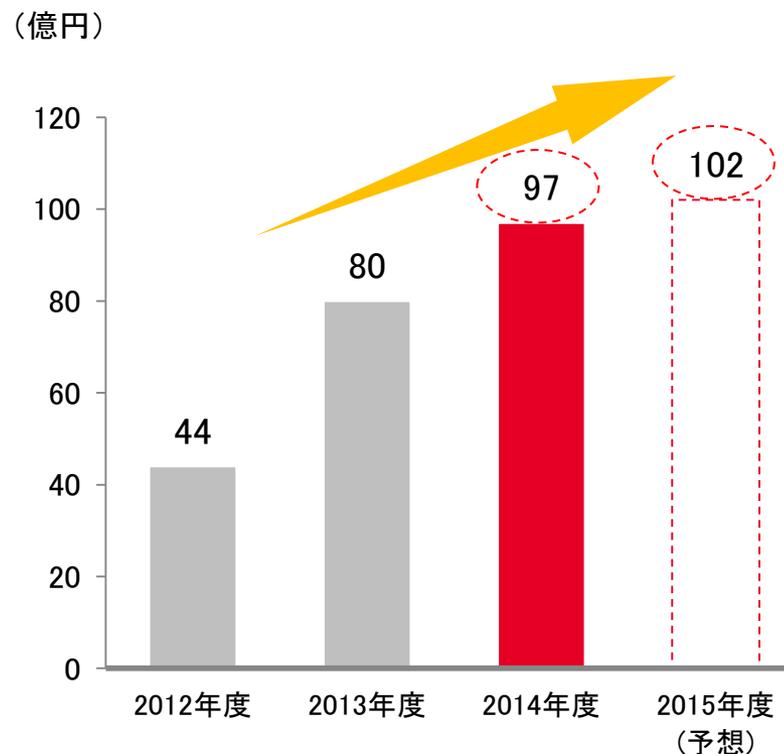
# 会計利益(日本会計基準)

◆ 基礎利益は200億円水準、2015年度のJ-GAAPベースの当期純利益は102億円を見込む

## 基礎利益※1



## 当期純利益



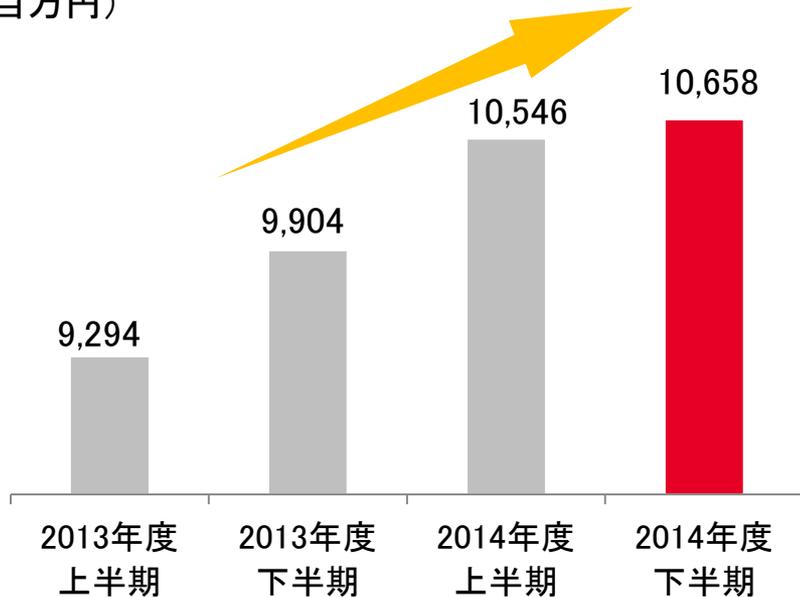
※1 経常利益から有価証券の売却損益などのキャピタル損益と危険準備金繰入などの臨時損益を控除したもので、一般事業会社の営業利益や銀行の業務純益に近いもの

# 損保チャネルと保障性商品ウエイト

◆ 損保チャネルで着実に販売増加、保障性商品のウエイトも高水準で推移

## 損保チャネルでの生保販売量推移

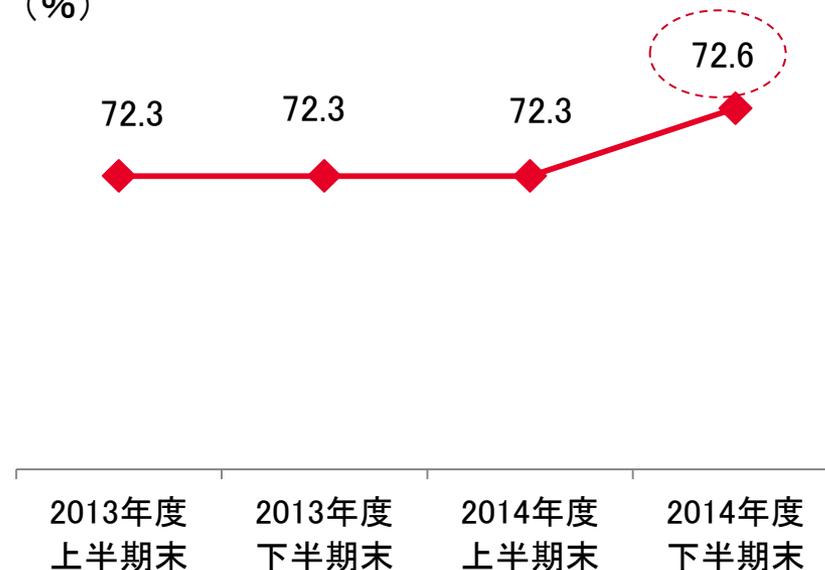
(百万円)



※ 新契約年換算保険料ベース

## 保障性商品のウエイト

(%)



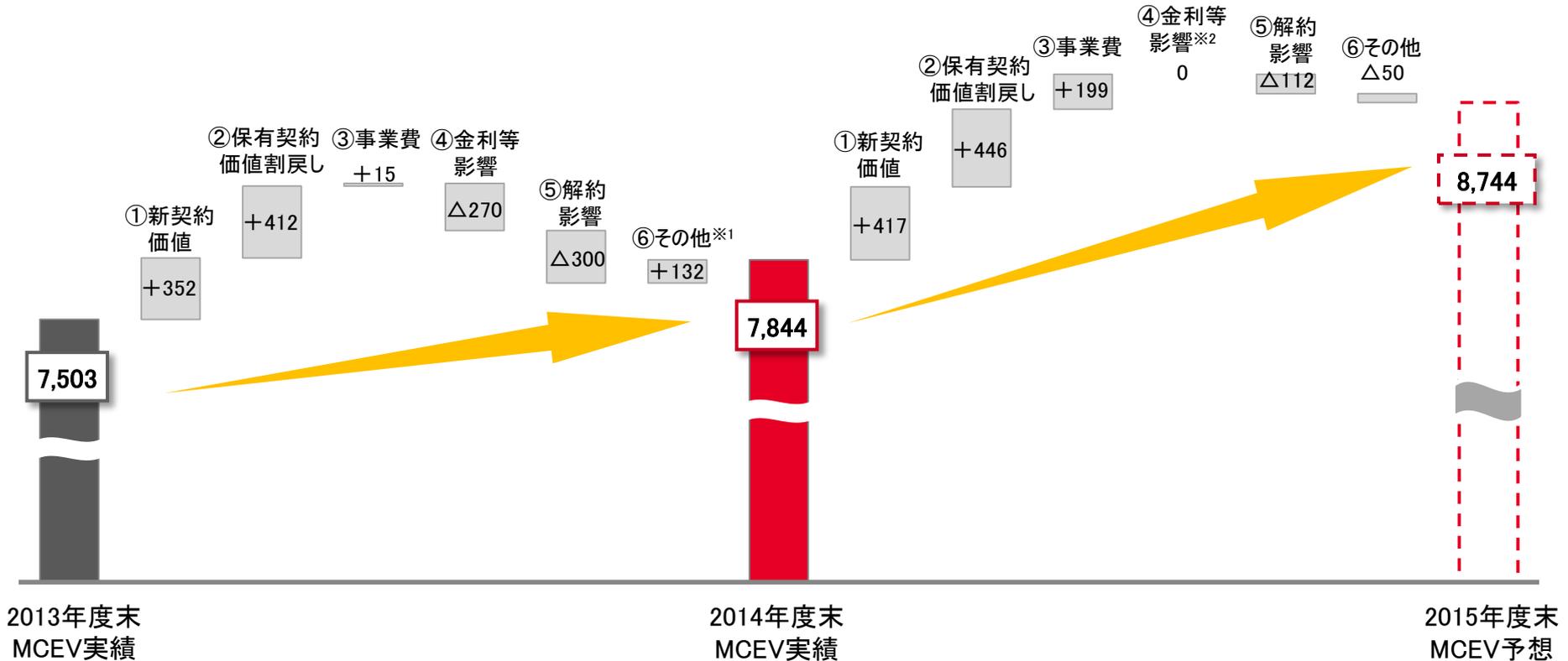
※ 保有契約件数ベース

# MCEVの推移

- ◆ 2014年度は医療保険が販売好調、一方、金利低下や新商品投入に伴う解約率上昇がマイナス寄与
- ◆ 2015年度のMCEVは+900億円の増加を見込む(当初計画値+1,000~1,100億円との差は金利影響など)

## MCEVの増減要因

(億円)



※1 法人税減税影響(+187億円)や配当支払いなど

※2 14年度末MCEV算出時の前提と同水準を想定

1. 業績動向

P. 1

2. 国内損保事業

P. 11

3. 国内生保事業

P. 26

4. 海外保険事業

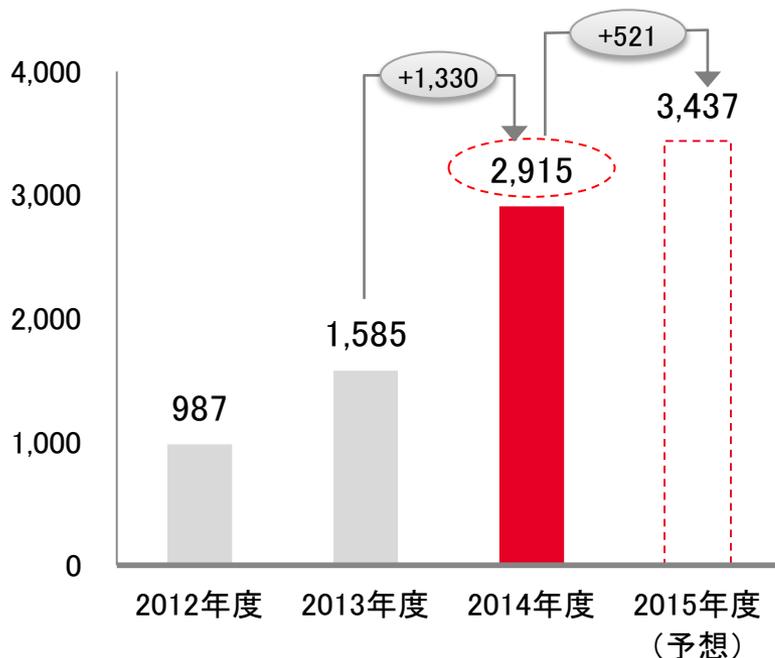
P. 31

## 業績概況(収入保険料、当期純利益)

◆ トップラインは増収基調を維持、ボトムラインは2014年度に既に計画数値(140~200億円)を達成

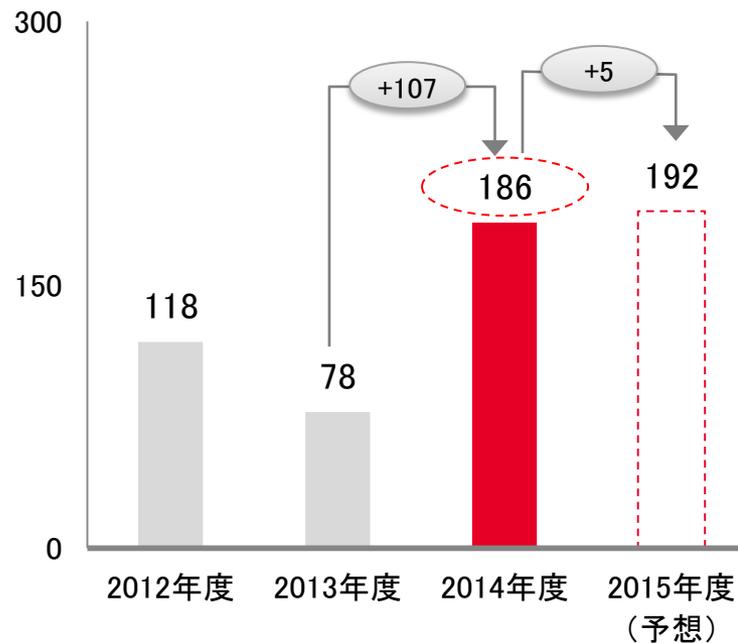
## 収入保険料

(億円)



## 当期純利益

(億円)



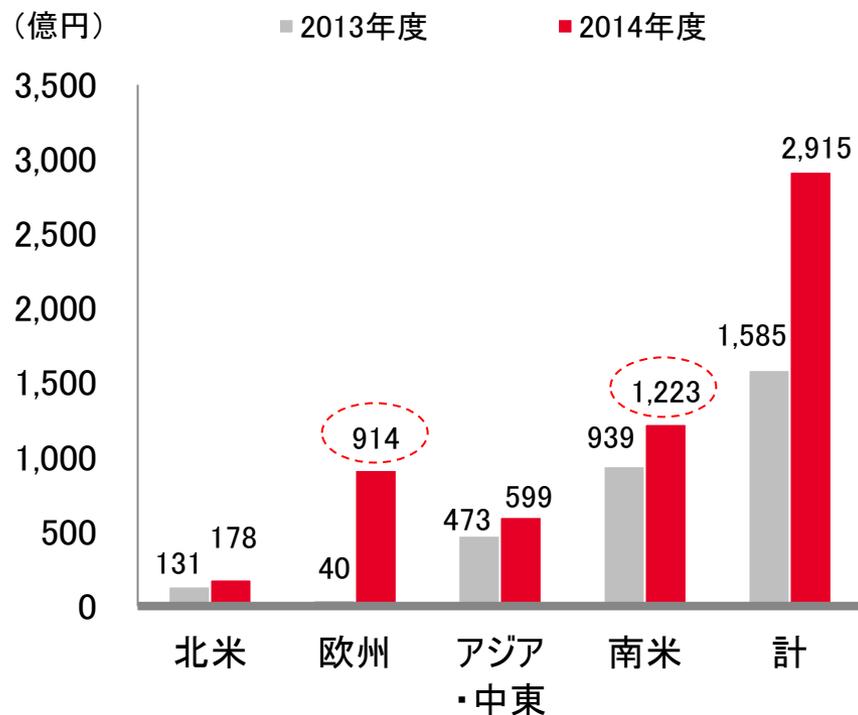
※収入保険料は、連結子会社、持分法適用会社ともに、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる

※当期純利益は、持分割合の反映などの調整を行った数値であり、連結財務諸表とは基準が異なる

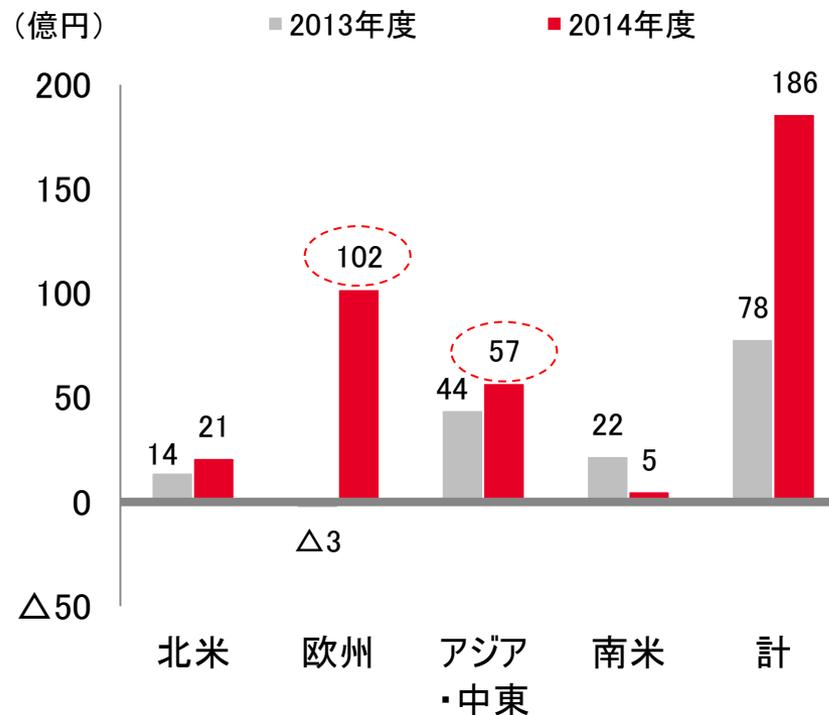
# 地域別業績概況

◆ 収入保険料は欧州と南米を中心に拡大、当期純利益は欧州とアジア・中東が貢献

## 収入保険料(地域別)



## 当期純利益(地域別)



※収入保険料は、連結子会社、持分法適用会社ともに、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる

※当期純利益は、持分割合の反映などの調整を行った数値であり、連結財務諸表とは基準が異なる

# グループ会社別業績

(億円)

		収入保険料			当期純利益			2014年度業績のポイント
		2014年度	増減	2015年度 (予想)	2014年度	増減	2015年度 (予想)	
北米	SJアメリカ	178	+47	239	21	+7	27	計画どおり推移
欧州	SJNKヨーロッパ+NKヨーロッパ	47	+6	53	3	+6	4	損害率が良好に推移
	キャンピアス(英国)	866	+866	1,505	98	+98	90	順調に利益貢献
アジア・ 中東	SJシゴルタ(トルコ)	228	+43	225	22	+2	18	主力の自動車保険が好調
	テネットソンポ(シンガポール)	95	+35	83	9	△25	8	事業費率が改善。前期はタイ洪水の支払備金影響(+36億円)あり
	ベルジャヤ(マレーシア)	118	+21	125	18	+3	13	保険引受利益・運用益ともに順調
	SJNK中国+NK中国	91	+14	76	4	+34	0	経費削減などが奏功
	SJNK香港+NKアジア	40	+3	43	2	△3	6	損害率悪化などが影響
	ユニバーサルソンポ(インド)	25	+6	32	1	+0	1	計画どおり推移
南米	安田マリチマ(ブラジル)	1,223	+283	1,052	5	△17	21	損害率悪化の影響を受けたが、既に対策を実施中
合計		2,915	+1,330	3,437	186	+107	192	-

※収入保険料は、連結子会社、持分法適用会社ともに、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる

※当期純利益は、持分割合の反映などの調整を行った数値であり、連結財務諸表とは基準が異なる。(なお、キャンピアス社の2014年度実績のうち、買収完了時(2014年5月)に確定していた利益は連結で修正する)

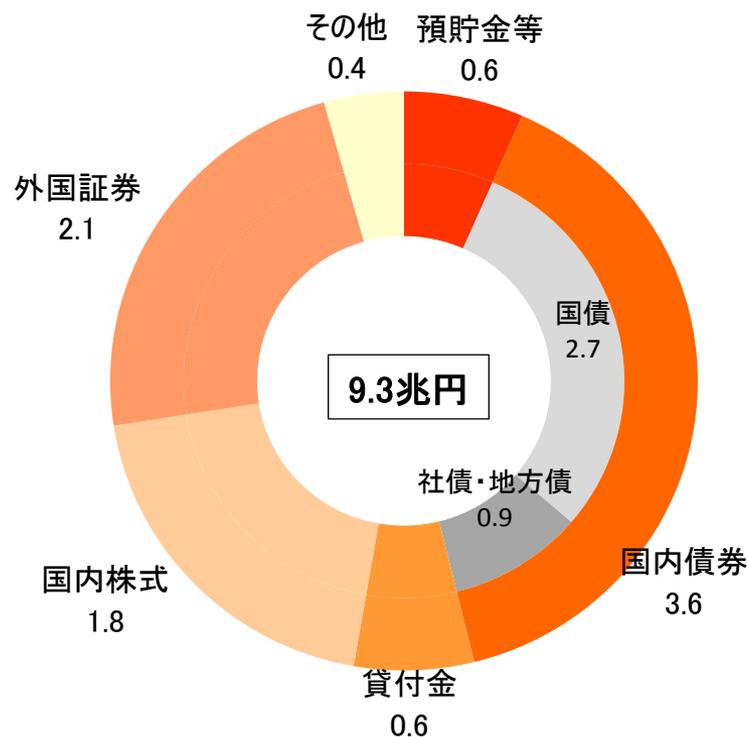
# 参考資料

# 資産ポートフォリオ(グループベース)

- ◆ 負債特性、流動性に留意したALMにより、安定的な利益確保を目指す
- ◆ 政策株式削減計画に従い、国内株式の削減を継続

## 資産運用額(2015年3月末 グループ連結ベース)

### 資産種別残高



※ “その他”は土地・建物、非連結子会社株式など

### 会社別資産運用額

	資産運用額 (億円)	構成比
損保ジャパン日本興亜(連結)	63,473	68.1%
ひまわり生命(連結)	22,275	23.9%
海外グループ会社	6,702	7.2%
セゾン自動車火災	381	0.4%
そんぼ24	206	0.2%
国内その他	105	0.1%
<b>合計</b>	<b>93,145</b>	<b>100%</b>

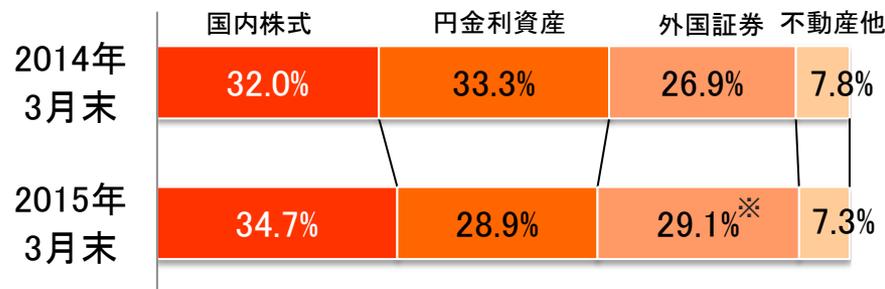
# 資産ポートフォリオ(損保ジャパン日本興亜)

◆ 一般勘定は分散投資、積立勘定はALMを基本とするポートフォリオマネジメントを継続

## 資産運用額(損保ジャパン日本興亜単体)



## 一般勘定の資産内訳



## 積立勘定の資産内訳



※ 外国証券(外貨建)内訳(2015年3月末)

	米ドル	ユーロ	その他	合計
債券	27%	14%	10%	51%
ファンド等	23%	0%	4%	27%
子会社・関連会社株	4%	3%	16%	23%
合計	53%	17%	30%	100%

	2014年3月末	2015年3月末
デュレーション	4.8年	4.5年
資産	6.1年	6.2年
負債		

# 資産ポートフォリオ(ひまわり生命)

◆ 円金利資産中心とした保守的なポートフォリオを継続

## 資産運用額(ひまわり生命単体)



## 資産・負債のデュレーション

	2014年3月末	2015年3月末
資産	12.9年	13.2年
負債	16.4年	19.0年

※ デュレーションギャップを適切に把握するため、資産と負債の残高の違いに基づく調整を行っている

# 経営数値

(単位:億円)		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	
		(実績)	(実績)	(実績)	(予想)	(計画)
国内損保事業※1	修正利益	△89	65	699	1,167	700~800
損保ジャパン 日本興亜※2	正味収入保険料	19,662	20,821	21,813	22,206	20,400
	(除く自賠責)	16,917	17,839	18,760	19,158	17,400
	正味損害率	72.0%	65.7%	65.6%	62.5%	65.6%
	(除く自賠責・金融保証)	68.8%	62.7%	63.2%	59.6%	62.8%
	正味事業費率	33.4%	32.2%	31.8%	31.4%	30.6%
	(除く自賠責)	35.2%	34.2%	33.6%	33.1%	32.6%
	コンバインド・レシオ	105.4%	97.9%	97.4%	93.8%	96.2%
	(除く自賠責・金融保証)	104.1%	96.9%	96.8%	92.7%	95.3%
国内生保事業	修正EV増加額	1,078	857	474	900	1,000~ 1,100
海外保険事業	当期純利益	118	78	186	192	140~200
金融・サービス事業	当期純利益	7	15	23	24	20~30
グループ合計	修正連結利益	1,116	1,015	1,383	2,280	1,800~ 2,100
修正連結ROE※3		5.4%	4.3%	5.2%	7.6%	7%以上

## 修正利益の定義

### 国内損害保険事業※1

当期純利益  
 + 異常危険準備金繰入額(税引後)  
 + 価格変動準備金繰入額(税引後)  
 - 有価証券の売却損益・評価損(税引後)  
 - 特殊要因

### 国内生命保険事業

当期エンベディッド・バリュー(EV)増加額  
 - 増資等資本取引  
 - 金利等変動影響

### 海外保険事業

当期純利益

### 金融・サービス事業

当期純利益

※1 損保ジャパン日本興亜、そんぽ24、セゾン自動車火災の合計

※2 2014年8月以前は旧損保ジャパンと旧日本興亜損保の合算値

※3 修正連結ROE = 修正連結利益 ÷ [連結純資産(除く生保子会社純資産) + 異常危険準備金(税引後) + 価格変動準備金(税引後) + 生保子会社EV]  
 (分母は、期首・期末の平均残高)

## 将来予想に関する記述について

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

### 【お問い合わせ先】



SOMPO ホールディングス

損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社  
経営企画部 IRチーム

電話番号 : 03-3349-3913

Fax : 03-3349-6545

E-Mail : [ir@sompo-hd.com](mailto:ir@sompo-hd.com)

Web : <http://www.sompo-hd.com/>